【研究活動紹介】

子どもの事故低減のための交通安全ソング

－「てれて！とまって！」の作成に協力して－

Road Safety Song for Children Produced to Decrease the Number of Child Traffic Accidents

－ Experience of Participating as a Researcher in Producing of the Song Named by「Te Te Te！Tommatte！」－

大 谷　亮[*1]
Akira OHTANI

Abstract

The author participated as a researcher in the production of a road safety song for children, "Te Te Te！ Tommatte！", offered by the Japan Broadcasting Corporation (NHK). The song was made up so that children can master skills to adequately cross a road and to foster social skills to create a safer and easier traffic society. This article introduces concepts of the song and explains the intended meaning of some of the song phrases. NHK and the author hope that the song can contribute to a reduction in the number of children's traffic accidents and to prompt children's development for an easier traffic society.

1. はじめに

日本では昭和 30 年代以降に道路交通事故が急増し，死者数が 1 万人を超える第一次交通戦争と称される時代に至った．この時期の交通事故の特徴としては，歩行者の事故が多く，特に幼い子どもが犠牲となる事例が続発した[1]．この状況を解決するため，道路交通法などの制定といった強制・規制対策（Enforcement），ガードレールや信号機の設置などの環境対策（Environment），および子どもやドライバーを対象にした教育対策（Education）の 3E 対策が実施された．これらの対策が功を奏し，また，少子化の状況も加わり，現在では子どもの交通事故は減少傾向にある．

しかしながら，歩行中の交通事故死傷者数が最も多い年齢は 7 歳児すなわち小学一年生であり[2]，2021 年度より開始された第 11 次交通安全基本計画[3]に明記されている対策の視点の一つである「高齢者及び子供の安全確保」の実現のために，この年齢層の子どもを対象にした対策が必要となっている．子どもの交通事故低減に向けた人的対策には，幼少期の子どもが事故に遭わないように保護者などが監視すること[4]や，子ども自身が適切な歩行行動を習得するための安全教育があり，発達段階に応じて監視と教育を遂行していくことが求められる[4]．

子どもを対象にした交通安全教育についてみると，楽しみながら道路の横断方法などを学習できるように，各種のグッズや交通安全ソングが欧州や日本などにおいて作成されている[例えば5)6)]．NHK（日本放送協会）は，例年起こる子どもの交通事故を減らしたいという想いから，交通安全ソング「てれて！とまって！」を 2022 年にリリースし，「みんなのうた」などで放映をおこなった[7]．「てれて！とまって！」の作成に際しては，筆者も子どもの交通行動や安全を専門とする研究者として取材に協力した．

本稿では，「てれて！とまって！」の主旨や作成に際しての留意点を，背景となっている研究成果を基に概説し，歌詞の内容について紹介する．

＊1　一般財団法人日本自動車研究所　自動走行研究部 博士（心理学）
＊2023年1月30日受理

2. 作成の主旨

「てくて！とまって！」は，7 歳児すなわち小学一年生から二年生の歩行中の交通事故が多いという統計資料に基づいて，小学校入学前や小学校低学年の子どもを主な対象としている．「てくて！とまって！」の作成の主旨として，以下の点が挙げられる．

(1) 目標とする子ども像

先述の通り，「てくて！とまって！」は，歩行中の交通事故死傷者数の多い 7 歳児をはじめとして，例年起こる子どもの交通事故を低減したいという想いから始まっている．この点から，適切な歩行行動を習得し，独力で安全を確保できる子どもの育成を目標としている．

また，子どもは未来のドライバー候補のため，将来にわたって適切な安全態度を有し [8]，子ども一人一人が快適な交通社会を作り上げていく交通形成者[1, 9] へと成長する素地を養うことを企図としている．

【 目標とする子ども像 】
- 適切な歩行行動を習得し独力で交通安全を確保できる子
- 将来にわたって安全態度を有する子
- 交通形成者として快適な交通社会を目指す子

(2) 子どもが習得を目指す内容

適切な歩行行動を習得し独力で交通安全を確保できる子どもの育成を目指して,「てくて！とまって！」では道路の横断方法を対象にした教育実践を想定している．道路の横断方法を対象にしたのは，7 歳児に相当する小学一年生が事故に遭う事例として道路横断中が多い [2] ためである．また，横断する道路の一例として想定した場面は，横断の判断やタイミングを子ども自身が行う必要のある直線単路の信号のない横断歩道とした．

さらに，安全で快適な交通社会を作り上げていく交通形成者の一員として子どもが成長するように，道を譲ったドライバーに対して感謝を示す内容も挿入した．

【 子どもが習得を目指す内容 】
- 直線単路の信号のない横断歩道の渡り方
- 快適な交通社会の実現の担い手として，道を譲ったドライバーに感謝の意を表明する感性

(3) 園や小学校，家庭での活用

適切な歩行行動の習得や交通形成者の育成を目指して，保育園や幼稚園，小学校，および家庭などで広く自由に活用できるように，「てくて！とまって！」は YouTube などを通して広く動画配信されている．

【 「てくて！とまって！」の動画配信 】
https://www.youtube.com/watch?v=wJG7Byz-YCI（参照 2023.2.10）

[1] 交通形成者とは，交通に参加するだけではなく，一人一人あるいは総体として，立場や手段の違いこそあれ，この交通社会を創り上げている存在として用いられる概念であり，ドイツにおいて使用されている用語である[9].

(4) 大人への啓発

子どもが交通事故の被害に遭う事例には，子ども側に違反がない場合も多いため [2]，「てて て！とまって！」では，横断歩道でも車が止まらない場面を想定し，子どもへの注意喚起を行うとともに，一緒に歌を聴く保護者などの大人への啓発も目指している．

3. 作成に際して留意した点

「てて て！とまって！」は，小学校入学前や小学校低学年の子どもを主な対象としているため，幼少期の子どもが理解できるように，発達段階に応じて学習内容や方法を決定することが必要となる．

子どもの発達段階に配慮し，「てて て！とまって！」の作成に際して留意した点は，下記の通りである．

(1) 具体的な内容の伝達

子どもの交通安全に関する先行研究をみると，年少者に対しては知識の獲得よりも技能の獲得を主とし，9 歳から 10 歳以上の児童に対して知識による技能の向上が期待できるとの報告がある [10]．

この報告を参考にして，小学校入学前や小学校低学年の子どもを主な対象としている「てて て！とまって！」では，道路標識などの意味を覚えるといった知識の習得よりも，直線単路の信号機のない横断歩道における道路の渡り方を，具体的な行動に基づいて学習できるように配慮している．道路の横断方法を学習内容としたのは，先述の通り，小学一年生では道路横断中の事故が多いためである．

直線単路の信号機のない横断歩道における道路の渡り方について，交通の方法に関する教則 [11]などを参考にして，「てて て！とまって！」は，以下の内容を学習できるように構成された．

【 対象とした道路の横断方法（学習内容） 】

- 信号機や横断歩道のある道路や，横断の際に道路がよく見渡せる場所を探す
- 横断前に停止する
- 周囲を確認する，車の接近音を聴く
- 車が近づいてきているときは，通り過ぎるまで待つ
- 再度周囲を見て，車が近づいていないかを確認する
- 手を上げるなどして横断の意思をドライバーに明確に伝える
- 走らず道路をまっすぐ歩き，横断中も車が接近しないか注意をする

(2) 焦点を絞った内容

以前筆者らが行った調査では，上記の学習内容に含まれる行動要素（停止する，確認する，さらには手を上げるなど）を小学一年生に一度に教育すると，横断時の周囲の確認回数は増えるものの確認時間に変化がみられず，車の接近などを確実に確認するといった行動を習得することが困難であることがわかった [12]．この課題を解決するために，習得困難であった確実な確認に焦点を当てて道路の横断方法を教育したところ，一年生の確認時間が長くなるといった結果が示された [13]．

以上の研究結果に基づいて，「てて て！とまって！」では教育内容の要点を絞り，道路横断方法として，「接近する車の確認」と「ドライバーへの横断の意思の合図」を主な内容として，幼少期の子どもが学習できるように配慮した．また，目標とする子ども像を目指して，道を譲ったドライバーにお礼を言うことも内容の一部に含めた．これは，横断歩道直前の一時停止率が日本で最も高い長野県において，

道を譲ってもらった歩行者がお礼を言うことでドライバーの停止率が向上しているのではないかといった仮定[2] に基づくものである [14].

ここで，交通事故はいくつかの要因が複数関係して発生するため，事故のリスクを低減するには何重もの対策が必要となる．上記の通り「てててて！とまって！」は，幼少期の子どもが学習しやすいように焦点を絞った内容となっているが，交通事故のリスクを低減するため，子どもが習得すべき行動要素は他にもいくつかある．例えば，歩行中の交通事故の中で幼少期の子どもの法令違反として最も多いのは「飛び出し」であり [15], 道路に飛び出さないように教育することが重要となる．「てててて！とまって！」は，上記の通り「接近する車の確認」，「ドライバーへの横断の意思の合図」，さらには「道を譲ってもらった際のお礼」を主な学習内容としているが，朝の登校時を対象にして，友達のところに早くいきたい気持ちを抑えて飛び出し事故を防ぐための内容も含まれている．

(3) 適切な利用の促進

「てててて！とまって！」などの交通安全ソングは，子どもが適切な道路の横断方法などを学習するためのツールであり，作成の主旨やポイントなどを利用者である教育担当者が誤解すると，作成したツールの有効性が損なわれる懸念がある．

そこで，NHK は，「「てててて！とまって！」を作ったわけ 交通事故から 7 歳を守る」[14]や「子どもを守る交通安全ソング「てててて！とまって！」」[7] をホームページ上に公開し，7 歳児の交通事故の状況や特徴，各所の取り組み，さらには教育担当者として期待される保護者など向けに，歌の活用方法やポイントを解説し，適切な利用の促進を図っている．

【 「てててて！とまって！」を作ったわけ 交通事故から 7 歳を守る [14] 】
https://www.nhk.or.jp/shutoken/article/002/73/（参照 2023.2.10）

【 子どもを守る交通安全ソング「てててて！とまって！」[7] 】
https://www.nhk.or.jp/shutoken/tetete/（参照 2023.2.10）

上記のホームページにおいて公開されている歌の活用方法（お子さんへの教え方）の概要は，以下の通りである [7].

【 歌の活用方法（概要） 】
① まずは歌ってみて，基本動作を学習する
② 子どもが普段よく通る道路や通学路などで実践してみる

①と②については，子どもの学習の進展状況には個人差が生じる可能性があるため，焦らず繰り返し実践することの大切さを解説している．繰り返しの実践は，子どもが習得すべき道路横断方法の行動要素は数多くあるため，一つ一つ確実に学習することを企図したものであり，プログラム学習[3]のスモールステップの原理を参考にしている．

2 横断歩道における歩行者のお礼とドライバーの停止率との関係については，今後，詳細な検討とデータの蓄積が必要である．
3 プログラム学習とは，行動心理学者スキナーによって開発されたものであり，学習心理学の理論に基づいて，行動変容を促進する考え方として6種類の原理が提案されている．

また，②では，教育担当者（保護者など）が安全を確保した上で実際の道路で実践することを前提に，プログラム学習のフェーディングの原理を参考にして，初めのうちは教育担当者が子どもに問いかけを行いながら学習を進め，徐々に教育担当者の介在を少なくして，子どもが主体的に学習できるようにすることを提案している．

4. 歌詞の内容

先述の通り，「ててて！とまって！」の主な学習内容は，「接近する車の確認」と「ドライバーへの横断の意思の合図」であるが，歌詞を通して具体的にみると，以下の通りである（以下，〇が歌詞）．

(1) 接近する車の確認

〇「まずは くるまを たしかめよう くくく くくる！ くるま！」

道路を横断する際に重要なことの一つは，急いでいても必ず止まって，車が接近していないかを“確認”することである．この確認行動の大切さを子どもが学べるように，「ててて！とまって！」には，上記の歌詞が含まれている．

〇「あっちから くるまが やってきた」

また，確認の本当の意味，すなわち，顔や目を周囲に向けるだけではなく，車が接近しているか否かを認識することの重要性を子どもが学習できるように，「あっちから くるまが やってきた」のフレーズが用いられている．このフレーズにより，先述の確実な確認に焦点を当てた訓練[13]の中で行ったように，接近する車の存在を頭で考えるといった確認の過程を，幼少期の子どもが理解できるようになっている．

(2) ドライバーへの横断の意思の合図

〇「ぼくに きづいてくれるかな うんてんしゅさんに てをあげて とまって！のあいずを とどけよう！ ててて ててて！とまって！」

次に，子どもが習得する横断方法のポイントとして，ドライバーに自分の存在を知らせること，さらには，道路を渡りたいといった意思を伝えることの大切さが歌詞に含まれている（図. 1）．

図. 1　「ててて！とまって！」のドライバーへの合図

この自分の存在と横断の意思の伝達については，京都府の「合図横断」や三重県の「ハンドサイン」を参考にした．京都府警察では，道路を横断する際の手あげ横断として，ドライバーの方に手のひらを向けてアイコンタクトを行い横断の意思を伝えることを推奨している[16]．

「ててて！とまって！」も，接近するドライバーに自分の手のひらを向けて，横断の意思の伝達と，ドライバーに止まってほしいという意思を伝えることの重要性を学べるように，上記の歌詞が含まれている．

先述の通り，道路の横断方法には様々な行動要素があり，幼少期の子どもが一度に多くのことを学習することは困難と推察される．この点を踏まえて，確認と手を上げるといった 2 つの行動要素を一つの動作にして，子どもが学習しやすいようにするとともに，手をドライバーの方向に向けることで自ずと視線もドライバーに向くことを企図している[16]．

(3) その他

○「いきたい きもちは わかるけど」

先述の通り，子どもが原因となる交通事故の中で多い事例が「飛び出し」である．「ててて！とまって！」では，急ぎの状況でも横断する際には必ず止まることを子どもが学習するために，朝の通学時に友達を見つける場面を想定して，早く会って話をしたい心理を抑える上記の描写が歌詞に挿入されている．

また，ホームページに公開されている歌の活用方法[7]の中で，子どもの興味は一人一人異なるため，保護者に対して，自分の子どもにとって何が飛び出しの原因になるのかを把握し，子どもと共有することの重要性についても指摘している．

さらに，「ててて！とまって！」を使って家庭や学校などで道路の横断方法を子どもが学習する際には，横断歩道を渡ることの重要性についても教えることが重要である．そこで，歌詞にはないが，道路を横断する際には比較的安全な場所を渡ることを学ぶために，横断歩道を利用する映像が挿入されている．

○「はんたいがわも たしかめて！」

ドライバーが道を譲っても慌てて横断せず，反対側も確認することを忘れないように，上記のフレーズが設けられている．

○「ててて ててて！とまらない ぼくにきづかず いっちゃった わたっていたら ひかれてた」

先述の通り，子どもが被害に遭う交通事故には子ども側に原因がない場合も多い．横断歩道でも車が止まらない場合があることを周知するため，また，子どもと一緒に「ててて！とまって！」を聴いている大人（保護者など）に対して横断歩道手前での一時停止を促すため，上記の歌詞が設定されている．

なお，ホームページに公開されている歌の活用方法（お子さんへの教え方）[7] では，最も交通事故に注意しなければならないのはドライバーとした上で，子どもも適切な道路の横断方法を習得することを推奨している．

以上が交通安全ソングの内容となるが，家庭での実践に加えて，学校現場でも「ててて！とまって！」を活用できるように，NHK for School において授業案が公開されている．

【「ててて！とまって！」　先生向けの授業教材（NHK for School のサイト）】
https://www2.nhk.or.jp/school/movie/bangumi.cgi?das_id=D0005270363_00000（参照 2023.2.10）

5. おわりに

子どもの交通行動や安全を専門とする研究者の願いは，科学の枠組みの中で取得した研究データを用いて子どもの交通事故低減やより良い交通社会人を育成することを通して社会に資することにある．

しかしながら，「自然過程と社会過程へのアプローチは本質的に異なっており，後者は議論し行動する市民の意識を媒介とする必要がある」という指摘 [17]が示すように，教育的アプローチを推進する際には，研究によって得られた結果を，人間の意識の集合体としての社会にどのように還元していくのかといった大きな壁がある．

今回，NHK からのお誘いにより，これまで取得してきた研究成果を参考にして，子どもの交通安全確保などの取り組みに参加できたことは，社会還元へのアプローチを実現するための良い機会だったと考えている．また，今回の取り組みを通して，研究成果を社会に容易に説明することの難しさや大変さを痛感することができ，貴重な体験となった．

今後，「てて て！とまって！」が広く普及し，子どもの交通事故低減や，快適な交通社会を作り上げていく交通形成者の育成に貢献できれば幸いである．

謝辞

「てて て！とまって！」の作成に際してご依頼をいただき，様々なご情報をご提供いただいた NHK 首都圏局の皆様に深く感謝申し上げます．

参考文献

1) 警察庁: 平成17年版警察白書 警察庁（編） ぎょうせい (2005)
https://www.npa.go.jp/hakusyo/h17/hakusho/h17/index.html (参照 2023.02.10)

2) 公益財団法人交通事故総合分析センター: 特集 小学一年生が登下校中に遭った死傷事故. イタルダインフォメーション, No.121 (2017), https://www.itarda.or.jp/contents/146/info121.pdf (参照 2023.02.10)

3) 内閣府 中央交通安全対策会議: 交通安全基本計画-交通事故のない社会を目指して (2021)

4) 大谷亮: 歩行中の子どもによる手つなぎ拒否と保護者の愛着・養育態度との関係. 応用心理学研究, Vol.47, No.2, p.94-105 (2021), doi.org:10.24651/oushinken.47.2_94 (参照 2023.02.10)

5) Department for Transport: THINK! Education resources. Safer journeys anthem.
https://www.think.gov.uk/resource/safer-journeys-anthem/ (参照 2023.02.10.)

6) 京都府警察本部交通安全教育センター: 交通安全サンバ~とどけ！手のひらあいず~.
https://www.youtube.com/watch?v=oBKQdA0mMCw, (参照 2023.02.10)

7) NHK: 子どもを守る交通安全ソング「てとて！とまって！」
https://www.nhk.or.jp/shutoken/tetete/ (参照 2023.02.10)

8) 大谷亮: 子どもを対象にした交通安全教育, 自動車技術, Vol.70, No.3, p.42-47 (2016)

9) 蓮花一己: 西ドイツの交通安全教育−子どもへの交通教育−, 人と車, Vol.19, No.3, p.9-12 (1983)

10) Michon, J. A: Traffic education for young pedestrians - An introduction-. Accident analysis and prevention, Vol.13, No.3, p.163-167 (1981), doi.org/10.1016/0001-4575(81)90002-6 (参照 2023.02.10)

11) 国家公安委員会: 交通の方法に関する教則,
https://www.npa.go.jp/koutsuu/kikaku/kyousoku/index.htm (参照 2023.02.10)

12)大谷亮・橋本博・岡田和未・小林隆・岡野玲子: 低学年児童を対象にした道路横断訓練の有効性, 交通心理学研究, Vol.30, No.1, p.26-40 (2014), doi.org/10.34362/jatp.30.26, (参照 2023.02.10)

13) 大谷亮: 焦点化訓練が低学年児童の道路横断行動に及ぼす影響, 応用心理学研究, Vol.42, No.2, p.101-111 (2016)
https://j-aap.jp/JJAP/JJAP_422_101-111.pdf (参照 2023.02.10)

14) NHK: 「てとて！とまって！」を作ったわけ 交通事故から7歳を守る
https://www.nhk.or.jp/shutoken/article/002/73/ (参照 2023.02.10)

15) 公益財団法人交通事故総合分析センター: 子どもの交通事故. イタルダインフォメーション, No.54 (2005)
https://www.itarda.or.jp/contents/484/info54.pdf (参照 2023.02.10)

16) 京都府警察安全横断検討会議: 信号機のない横断歩道における歩行者保護を徹底するための取組に関する提言, (2021)
https://www.pref.kyoto.jp/fukei/kotu/koki_k_t/signal/documents/teigen0309.pdf (参照 2023.02.10)

17) ユルゲン・ハーバーマス: 理論と実践, 細谷貞雄訳 未来社 (1999)